

決算補足説明資料 2015年度 決算

2016年5月11日
田辺三菱製薬株式会社
証券コード: 4508



本資料に関するお問い合わせ
広報部 TEL 06-6205-5211
FAX 06-6205-5105

目次

1	2015年度 決算の概要	
	1. 2015年度 業績サマリー(日本基準) 2. 2016年度 業績予想サマリー(IFRS) 3. 配当金	2
2	2015年度 連結決算について(日本基準)	
	1. 損益状況	3
	① 損益実績 ② 売上原価／販売費及び一般管理費 ③ 為替レート	3
	④ 営業外損益 ⑤ 特別損益 ⑥ 法人税等	4
	⑦ IFRS適用に伴う影響	5
	⑧ 主要製品売上高	6
	2. 財務状況	7
	① 資産・負債・純資産の状況	7
	② キャッシュ・フロー計算書	8
	③ 設備投資／情報システム開発投資 ④ 減価償却費	9
	3. 主要連結子会社の財務数値・従業員数	9
3	2016年度 業績予想について(IFRS)	
	① 損益予想 ② 為替レート	10
	③ 主要製品売上収益予想	11
	④ 設備投資／情報システム開発投資予想 ⑤ 減価償却費／償却費予想	12
4	5カ年連結財務数値	
	① 損益計算書 ② 貸借対照表 ③ その他財務数値 ④ 従業員数	13
5	四半期業績の推移(日本基準)	
	① 損益計算書	14
	② 主要製品売上高	15
6	新製品開発状況について(2016年5月11日現在)	
	1. 新規薬剤	16
	2. 効能・用法追加	17
	3. 導出品	18
	4. 2015年度第3四半期決算発表時点(2016年2月3日)からの変更点	19
	① 新規薬剤 ② 効能・用法追加	19
	5. 新製品開発状況補足資料(2016年5月11日現在)	20
	① 新規薬剤 ② 効能・用法追加	20
	③ 導出品	21
7	その他	
	1. 関係会社	22
	① 関係会社数 ② 連結子会社一覧 ③ 持分法適用関連会社一覧	22
	2. 株式の状況	23
	① 発行済株式数 ② 大株主の状況 ③ 所有者別株式数分布状況	
	④ 配当金／株価推移	23
	参考	
	主要医療用医薬品の解説／ニュースリリース	24

1 2015年度 決算の概要

(億円未満四捨五入)

1. 2015年度 業績サマリー(日本基準)

当期の連結業績は、導入に伴う一時金の支払や事業構造改革のさらなる推進を行った一方、重点品・ワクチンの増販およびジレニア・インヴォカナのロイヤリティ収入増に加え、自己免疫疾患治療剤および脂質異常症治療剤の導入に伴う一時金収入が発生したことが大きく寄与し、売上高および各段階利益ともに当社発足以来の最高となりました。

売上高	4,317 億円	前期比	166 億円	4.0 %
○国内	3,148 億円	前期比	△ 224 億円	△ 6.6 %
○海外	1,169 億円	前期比	390 億円	50.0 %
海外売上高比率	27.1 %	前期比	8.3 ポイント	

売上高は、前期比+4.0%、166億円増収の4,317億円となりました。

国内医療用医薬品は、血漿分画製剤の販売提携が2015年3月末をもって終了した影響などにより、前期比4.9%減収の3,081億円となりました。

ロイヤリティ収入等は、ノバルティスに導出した多発性硬化症治療剤「ジレニア」、ヤンセンファーマシューティカルズに導出した2型糖尿病治療剤「インヴォカナ」および同剤とメトホルミンの合剤(即放性製剤)に係るロイヤリティ収入の増加や、バイオジェンとの自己免疫疾患治療剤「MT-1303」に関するライセンス契約、アムジェンおよびデジマとの脂質異常症治療剤(CETP阻害剤)「TA-8995」に関する特許・ノウハウの譲渡契約による契約一時金の受け取りなどにより、前期比52.5%増収の920億円となりました。

営業利益	949 億円	前期比	278 億円	41.4 %
------	--------	-----	--------	--------

営業利益は、前期比+41.4%、278億円増益の949億円となりました。

売上原価率は、血漿分画製剤の販売提携終了、ロイヤリティ収入の伸長、契約一時金の受け取りなどにより、前期比4.8ポイント低下し、36.1%となりました。これに伴い、売上総利益は前期比304億円増益の2,759億円となりました。

販売費及び一般管理費は、研究開発費の増加などにより、前期比26億円増加し、1,810億円となりました。

経常利益	948 億円	前期比	271 億円	40.1 %
------	--------	-----	--------	--------

親会社株主に帰属する 当期純利益	564 億円	前期比	169 億円	42.9 %
---------------------	--------	-----	--------	--------

経常利益は、前期比+40.1%、271億円増益の948億円となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比+42.9%、169億円増益の564億円となりました。

営業外損益は、為替差損などにより前期比7億円減少しました。

特別利益は、投資有価証券売却益134億円などにより141億円となりました。なお、前期の特別利益は、主に固定資産売却益などにより137億円でした。

特別損失は、早期退職者の募集に伴う割増退職金等153億円を含む構造改革費用163億円や減損損失45億円などにより246億円となりました。なお、前期の特別損失は、構造改革費用などにより186億円でした。

2. 2016年度 業績予想サマリー(IFRS)

売上収益	4,065 億円	前期比	△ 193 億円	△ 4.5 %
コア営業利益	770 億円	前期比	△ 302 億円	△ 28.2 %
営業利益	755 億円	前期比	△ 66 億円	△ 8.0 %
税引前利益	770 億円	前期比	△ 65 億円	△ 7.8 %
親会社の所有者に 帰属する当期利益	570 億円	前期比	△ 25 億円	△ 4.2 %

(注) 当社は2016年度第1四半期より、日本基準に替えて国際財務報告基準(IFRS)を任意適用いたします。このため、2016年度業績予想はIFRSに準拠した数値を表示しております。なお、前期比較については、2015年度業績をIFRSに読み替えた参考値に対する増減額および増減率を表示しております(当該参考値については監査手続きを終了していません)。

3. 配当金

	2016年度予想(IFRS)		2015年度(日本基準)	
	上期末	年間	上期末	年間
1株当たり配当金(円)	24	48	22	46
配当性向	-	47.2%	-	45.7%

(注) 2015年度は日本基準(のれん償却後)、2016年度予想はIFRSベース(のれん非償却)の配当性向を表示しております。

2 2015年度 連結決算について(日本基準)

(億円未満四捨五入)

1. 損益状況

① 損益実績

(単位:億円)

	2015年度	前期比較			予想比較			主なポイント(前期比較)
		2014年度	増減額	増減率%	予想(注)	増減額	増減率%	
売上高	4,317	4,151	166	4.0	4,290	27	0.6	P6「⑧ 主要製品売上高」参照
国内	3,148	3,372	△ 224	△ 6.6	<i>3,034</i>	114	3.8	海外売上高比率 2014年度:18.8% 2015年度:27.1%
海外	1,169	779	390	50.0	<i>1,146</i>	23	2.0	
売上原価	1,558	1,696	△ 138	△ 8.1	1,550	8	0.5	血漿分画製剤の販売提携終了、ロイヤリティ収入等の増収などにより売上原価率が改善
売上原価率	36.1%	40.9%			36.1%			
売上総利益	2,759	2,455	304	12.4	2,740	19	0.7	
販管費	1,810	1,784	26	1.5	1,820	△ 10	△ 0.6	
販管費比率	41.9%	43.0%			42.4%			
営業利益	949	671	278	41.4	920	29	3.2	
経常利益	948	677	271	40.1	910	38	4.1	
特別損益	△ 105	△ 50	△ 55	-	△ 105	0	-	
親会社株主に帰属する当期純利益	564	395	169	42.9	530	34	6.5	

② 売上原価／販売費及び一般管理費

(単位:億円)

	2015年度	前期比較			予想比較			主なポイント(前期比較)
		2014年度	増減額	増減率%	予想(注)	増減額	増減率%	
売上原価	1,558	1,696	△ 138	△ 8.1	1,550	8	0.5	
比率	36.1%	40.9%			36.1%			
販管費	1,810	1,784	26	1.5	1,820	△ 10	△ 0.6	
比率	41.9%	43.0%			42.4%			
研究開発費	753	696	57	8.2	740	13	1.7	
比率	17.4%	16.8%			17.2%			
研究開発費以外	1,057	1,088	△ 31	△ 2.8	1,080	△ 23	△ 2.1	
人件費	466	468	△ 2	△ 0.4	470	△ 4	△ 0.9	
のれん償却額	105	109	△ 4	△ 3.8	105	0	△ 0.0	
その他	486	511	△ 25	△ 4.8	505	△ 19	△ 3.7	
総人件費	787	811	△ 24	△ 3.0	785	2	0.2	

(注) 2016年2月3日 2015年度第3四半期決算発表時に公表した予想数値。但し、売上高の国内・海外の内訳(斜体で表示)については2015年10月30日 2015年度第2四半期決算発表時に公表した予想数値。

③ 為替レート

(単位:円)

	2015年度 平均レート	2014年度 平均レート	2015年度 想定レート
米ドル	120.16	110.62	120.00
ユーロ	132.53	138.43	130.00

④ 営業外損益

(単位:億円)

	2015年度	2014年度	増減額	主なポイント
営業外収益	40	38	2	
受取利息	18	16	2	
受取配当金	12	8	4	
持分法による投資利益	0	0	0	
為替差益	-	4	△ 4	
受取賃貸料	2	2	0	
その他	7	8	0	
営業外費用	41	32	9	
支払利息	2	2	0	
固定資産除却損	5	3	2	
為替差損	5	-	5	
投資有価証券運用損	5	3	2	
出向者労務費差額	-	1	△ 1	
寄付金	14	15	△ 1	
その他	10	8	2	

⑤ 特別損益

(単位:億円)

	2015年度	2014年度	増減額	主なポイント
特別利益	141	137	5	
固定資産売却益	7	120	△ 113	当期)戸田寮、平野町1号ビル売却益 前期)旧日本橋ビル跡地売却益
投資有価証券売却益	134	11	124	主に国内上場株式の売却益
関係会社株式売却益	-	6	△ 6	前期)エーピーアイコーポレーション、シミックCMO足利の株式売却益
特別損失	246	186	60	
減損損失	45	26	19	当期)バイファ本社工場製造設備等、加島事業所研究棟ほか 前期)戸田寮ほか
構造改革費用	163	123	40	当期)早期退職に伴う割増退職金ほか 前期)かずさ事業所閉鎖、鹿島工場譲渡などに伴う損失
のれん償却額	-	35	△ 35	前期)バイファのれん一括償却
HCV訴訟損失引当金繰入額	35	-	35	
投資有価証券評価損	3	1	1	
投資有価証券売却損	-	1	△ 1	
その他	-	1	△ 1	

⑥ 法人税等

(単位:億円)

	2015年度	2014年度	増減額	主なポイント
税金等調整前当期純利益	843	627	216	
法人税、住民税 及び事業税	308	298	10	
法人税等調整額	△ 6	△ 44	38	
当期純利益	542	373	169	
非支配株主に帰属する当期 純利益又は損失(△)	△ 23	△ 22	△ 1	
親会社株主に帰属する 当期純利益	564	395	169	

⑦ IFRS適用に伴う影響

(単位: 億円)

日本基準		IFRS(注)		差異	主な差異内容
勘定科目	2015年度実績	勘定科目	2015年度実績 (参考値)		
売上高	4,317	売上収益	4,258	△ 59	「MT-1303」導出契約一時金を繰延収益に計上 △72億円
売上原価	1,558	売上原価	1,560	2	
売上総利益	2,759	売上総利益	2,698	△ 61	
販管費 (研究開発費以外)	1,057	販管費	959	△ 98	のれん非償却 △105億円
-		製品に係る 無形資産償却費	15	15	
研究開発費	753	研究開発費	647	△ 106	導入費用を無形資産に計上 △114億円
-	-	その他の損益	△ 5	△ 5	
-	-	コア営業利益	1,072	1,072	
-	-	非経常項目	△ 252	△ 252	特別損益(投資有価証券売却益を除く)から組替 △232億円
営業利益	949	営業利益	821	△ 128	
営業外損益	△ 1	-	-	1	販管費へ組替 +14億円、金融損益へ組替 △17億円
-	-	金融損益	15	15	営業外損益から組替 +17億円
特別損益	△ 105	-	-	105	非経常項目へ組替 +232億円、投資有価証券売却益 を包括利益(PL対象外)へ組替 △134億円
税金等調整前 当期純利益	843	税引前利益	835	△ 8	
親会社株主に 帰属する当期純利益	564	親会社の所有者に 帰属する当期利益	595	31	

(注) IFRSによる参考値は日本基準による2015年度実績をIFRSに読み替えた参考値であり、監査手続きを終了していません。

⑧ 主要製品売上高

(単位:億円)

	2015年度	前期比較			予想比較		
		2014年度	増減額	増減率%	予想(注1)	増減額	増減率%
医療用医薬品	4,276	4,107	169	4.1	4,135	141	3.4
国内医療用医薬品	3,081	3,239	△ 158	△ 4.9	2,966	115	3.9
レミケード	694	706	△ 12	△ 1.7	677	18	2.6
タリオン	169	160	9	5.6	169	0	0.2
セレジスト	142	157	△ 15	△ 9.5	137	5	3.7
テネリア(旧スキーム)(注2)	37	62	△ 26	△ 41.2	37	0	△ 0.3
テネリア(新スキーム)(注2)	105	非開示	-	-	99	6	6.1
メインテート	135	141	△ 7	△ 4.6	132	3	2.0
シンボニー	129	105	25	23.5	126	3	2.7
レクサプロ	95	80	15	19.2	104	△ 9	△ 8.9
クレメジン	93	105	△ 13	△ 12.0	91	2	2.3
ウルソ	82	100	△ 18	△ 18.2	84	△ 2	△ 2.5
デパス	73	81	△ 8	△ 9.7	70	3	4.3
ラジカット	73	74	△ 1	△ 1.5	62	11	17.0
アンブラーグ	64	83	△ 19	△ 22.5	64	1	1.1
ワクチン	391	303	88	29.1	326	64	19.7
インフルエンザ	138	74	64	86.5	112	26	22.8
テトラビック	95	75	20	26.5	74	21	28.5
水痘ワクチン	64	72	△ 8	△ 11.2	非開示	-	-
ミールビック	50	40	10	26.0	非開示	-	-
田辺製薬販売取扱品(注3)	138	136	2	1.6	140	△ 2	△ 1.4
海外医療用医薬品	252	230	22	9.6	252	0	0.0
ヘルベッサー	65	65	0	0.1	68	△ 3	△ 4.5
アルガトロバン(ノバスタン)	27	21	6	26.5	28	△ 1	△ 3.7
タナトリル	16	18	△ 2	△ 12.9	17	△ 1	△ 6.8
製造受託品(注4)	22	34	△ 12	△ 35.2	21	1	6.2
ロイヤリティ収入等	920	604	317	52.5	896	24	2.7
ジレニア ロイヤリティ	517	439	78	17.7	非開示	-	-
インヴォカナ ロイヤリティ	206	98	109	111.2	非開示	-	-
一般用医薬品	38	40	△ 2	△ 5.8	41	△ 3	△ 8.3
売上高合計	4,317	4,151	166	4.0	4,290	27	0.6

(注1) 売上高合計については2016年2月3日 2015年度第3四半期決算発表時に公表した予想数値を、売上高合計以外(斜体で表示)については2015年10月30日 2015年度第2四半期決算発表時に公表した予想数値を示しております。

(注2) テネリアについては、2015年10月1日より、当社と第一三共による共同販売から第一三共による単独販売へと販売スキームが変更となりました。スキーム変更後は、第一三共への販売額と同社から受け取るプロモーションフィーを合算し、テネリア(新スキーム)として当社売上高を開示しております。

(注3) ジェネリック医薬品の他、田辺三菱製薬より移管した長期収載品を含んでおります。

(注4) 他社製品の製造受託品等

2. 財務状況

① 資産・負債・純資産の状況

(単位:億円)

	2015年度末	構成比%	2014年度末	増減額	主なポイント
総資産	9,302	100.0	9,293	9	
流動資産	6,573	70.7	6,036	536	
現金及び預金	1,427	15.3	502	925	P8「② キャッシュ・フロー計算書」参照
有価証券	965	10.4	1,188	△ 223	譲渡性預金、社債の減少など
売上債権(注1)	1,213	13.0	1,303	△ 90	
たな卸資産	756	8.1	851	△ 95	
預け金	1,931	20.8	1,928	4	
繰延税金資産	73	0.8	83	△ 10	
その他	207	2.2	181	26	
固定資産	2,730	29.3	3,257	△ 527	
有形固定資産	883	9.5	925	△ 42	設備投資 +112億円、減価償却 △73億円、減損・除売却 △67億円など
無形固定資産	1,026	11.0	1,169	△ 143	情報システム開発投資 +9億円、減価償却 △14億円、合併時のれん償却 △100億円など
投資有価証券	498	5.4	763	△ 265	国内上場株式の売却による減少など
繰延税金資産	61	0.7	8	53	
退職給付に係る資産	82	0.9	157	△ 76	
その他	181	1.9	234	△ 53	
負債	1,135	12.2	1,289	△ 153	
流動負債	913	9.8	1,054	△ 141	
仕入債務(注2)	327	3.5	346	△ 19	
1年内返済予定の長期借入金	1	0.0	1	0	
未払金	198	2.1	254	△ 56	
未払法人税等	175	1.9	198	△ 23	
賞与引当金	107	1.1	100	7	
その他	105	1.1	155	△ 50	
固定負債	222	2.4	235	△ 12	
長期借入金	7	0.1	9	△ 2	
繰延税金負債	75	0.8	98	△ 22	
HIV訴訟健康管理手当等引当金	16	0.2	17	△ 1	
スモン訴訟健康管理手当等引当金	25	0.3	27	△ 2	
HCV訴訟損失引当金	50	0.5	20	30	繰入 +35億円
退職給付に係る負債	14	0.1	25	△ 11	
その他	35	0.4	39	△ 4	
純資産	8,167	87.8	8,004	163	
株主資本	8,078	86.8	7,760	317	
資本金	500	5.4	500	-	
資本剰余金	4,512	48.5	4,512	-	
利益剰余金	3,071	33.0	2,753	318	親会社株主に帰属する当期純利益 +564億円、配当金支払い △247億円
自己株式	△ 5	△ 0.1	△ 5	0	
その他の包括利益累計額	△ 18	△ 0.2	130	△ 148	
その他有価証券評価差額金	119	1.3	149	△ 31	
繰延ヘッジ損益	0	0.0	1	△ 1	
為替換算調整勘定	△ 38	△ 0.4	1	△ 39	
退職給付に係る調整累計額	△ 99	△ 1.1	△ 22	△ 77	
非支配株主持分	108	1.2	115	△ 7	

(注1) 売上債権＝受取手形＋売掛金

(注2) 仕入債務＝支払手形(除く営業外支払手形)＋買掛金

② キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	2015年度	2014年度	増減額
現金・現金同等物期首残高	733	850	△ 116
営業キャッシュ・フロー	652	682	△ 30
税金等調整前当期純利益	843	627	216
減価償却費	88	90	△ 2
減損損失	45	26	19
のれん償却額	105	144	△ 39
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△ 8	△ 5	△ 3
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△ 46	△ 39	△ 7
HCV訴訟損失引当金の増減額(△は減少)	30	△ 6	36
受取利息及び受取配当金	△ 30	△ 24	△ 6
固定資産除売却損益(△は益)	△ 2	△ 118	116
構造改革費用	163	123	40
関係会社株式売却損益(△は益)	-	△ 6	6
投資有価証券売却損益(△は益)	△ 134	△ 10	△ 124
売上債権の増減額(△は増加)	87	△ 67	154
たな卸資産の増減額(△は増加)	63	78	△ 15
仕入債務の増減額(△は減少)	△ 17	5	△ 22
未払金の増減額(△は減少)	△ 44	59	△ 104
利息及び配当金の受取額	30	24	6
特別退職金の支払額	△ 153	-	△ 153
法人税等の支払額	△ 337	△ 200	△ 138
その他	△ 30	△ 20	△ 11
投資キャッシュ・フロー	△ 266	△ 598	333
有価証券の取得・売却等	413	△ 264	677
定期預金の預入・払戻	△ 936	△ 202	△ 734
預け金の預入による支出	△ 4	△ 206	202
有形固定資産の取得・売却	△ 91	△ 13	△ 78
無形固定資産の取得による支出	△ 12	△ 15	4
投資有価証券の取得・売却等	300	11	290
関係会社株式の売却による収入	-	76	△ 76
会社分割による収入	33	-	33
事業譲渡による収入	30	-	30
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	-	15	△ 15
その他	0	0	△ 1
財務キャッシュ・フロー	△ 222	△ 219	△ 4
短期借入金の純増減額(△は減少)	-	△ 12	12
非支配株主からの払込みによる収入	28	26	2
配当金の支払額	△ 247	△ 224	△ 22
非支配株主への配当金の支払額	△ 1	△ 6	5
その他	△ 2	△ 2	0
現金・現金同等物に係る換算差額	△ 8	19	△ 27
現金・現金同等物の増減額(△は減少)	156	△ 116	272
現金・現金同等物期末残高	889	733	156

* 現金・現金同等物の期末残高と連結貸借対照表上の現金及び預金との関係(単位:億円)

	2015年度	2014年度
現金及び預金	1,427	502
預入期間が3か月を超える定期預金	△ 1,180	△ 256
取得日から3か月以内に償還期限が到来する有価証券	430	280
短期貸付金(注)に含まれる現金同等物	12	7
預け金に含まれる現金同等物	200	200
現金・現金同等物	889	733

(注)短期貸付金は、連結貸借対照表(7ページ)上は流動資産その他に含めております。

③ 設備投資／情報システム開発投資

(単位:億円)

	2015年度	2014年度	増減額
設備投資額／発生ベース	112	157	△ 45
システム投資額／発生ベース	9	16	△ 6

2015年度の主な設備投資		2015年度の主なシステム開発投資	
田辺三菱製薬	37億円	田辺三菱製薬	7億円
田辺三菱製薬工場 (吉富工場新製剤棟建設)	51億円 (21億円)		
(小野田工場注射剤再編工事)	(15億円)		

④ 減価償却費

(単位:億円)

	2015年度	2014年度	増減額
有形固定資産	73	75	△ 2
無形固定資産	16	16	0

3. 主要連結子会社の財務数値・従業員数

(単位:億円)

	会社名	田辺三菱製薬工場	田辺製薬販売	ミツピン タナベ ファーマ コリア	メディカゴ	天津田辺製薬	タナベ インドネシア
売上高	2015年度	290	138	46	3	53	17
	2014年度	394	136	44	11	45	23
営業利益	2015年度	26	△ 5	3	△ 60	3	△ 1
	2014年度	36	△ 1	2	△ 51	5	1
経常利益	2015年度	26	△ 5	3	△ 63	1	△ 1
	2014年度	36	△ 1	3	△ 52	5	1
親会社株主に 帰属する当期 純利益	2015年度	10	△ 7	2	△ 63	0	△ 1
	2014年度	7	△ 1	2	△ 53	3	0
研究開発費	2015年度	8	-	-	63	2	0
	2014年度	13	-	-	62	2	0
有形固定資産 減価償却費	2015年度	18	0	1	6	2	1
	2014年度	22	0	1	4	1	1
総資産	2015年度末	486	66	37	332	54	29
	2014年度末	482	60	37	356	61	31
純資産	2015年度末	376	2	28	226	33	15
	2014年度末	369	3	30	242	39	17
従業員数(人)	2015年度末	839	156	128	291	562	404
	2014年度末	1,087	168	121	263	537	441

(注)上記財務数値は内部取引消去前の数値です。

3 2016年度 業績予想について(IFRS)

(億円未満四捨五入)

① 損益予想

(単位:億円)

	2016年度 上期予想	2016年度 通期予想	2015年度 通期実績 (参考値) <small>(注)</small>	増減額	増減率%	主なポイント
売上収益	1,930	4,065	4,258	△ 193	△ 4.5	P11「③ 主要製品売上収益予想」参照
国内	1,449	3,078	3,154	△ 76	△ 2.4	海外売上高比率 2015年度:25.9% 2016年度予想:24.3%
海外	481	987	1,104	△ 117	△ 10.6	
売上原価	725	1,590	1,560	30	1.9	薬価改定の影響等により売上原価率が上昇
売上原価率	37.6%	39.1%	36.6%			
売上総利益	1,205	2,475	2,698	△ 223	△ 8.3	
販管費	480	985	959	26	2.7	
製品に係る無形資産償却費	7	15	15	-	-	
研究開発費	335	700	647	53	8.2	
その他の損益	△ 3	△ 5	△ 5	-	-	
コア営業利益	380	770	1,072	△ 302	△ 28.2	
非経常項目	-	△ 15	△ 252	237	-	
営業利益	380	755	821	△ 66	△ 8.0	
金融損益	5	15	15	-	-	
税引前利益	385	770	835	△ 65	△ 7.8	
親会社の所有者に 帰属する当期利益	285	570	595	△ 25	△ 4.2	
総人件費	375	750	805	△ 55	△ 6.8	早期退職による減少、米国事業展開による増加など

(注) 2015年度通期実績(参考値)は日本基準による2015年度実績をIFRSに読み替えた参考値であり、監査手続きを終了していません。

② 為替レート

(単位:円)

	2016年度 想定レート	2015年度 平均レート
米ドル	110.00	120.16
ユーロ	120.00	132.53

③ 主要製品売上収益予想

(単位:億円)

	2016年度 上期予想	2016年度 通期予想	2015年度 通期実績 (参考値)	増減額	増減率%
医療用医薬品	1,906	4,022	4,216	△ 194	△ 4.6
国内医療用医薬品	1,412	3,009	3,081	△ 72	△ 2.3
レミケード	317	625	694	△ 69	△ 9.9
シンボニー	113	234	129	105	81.0
テネリア(旧スキーム)(注1)	-	-	37	△ 37	△ 100.0
テネリア(新スキーム)(注1)	83	175	105	70	66.7
タリオン	67	173	169	4	2.7
レクサプロ	57	126	95	31	32.9
セレジスト	63	123	142	△ 19	△ 13.6
メインテート	54	107	135	△ 28	△ 20.5
クレメジン	38	73	93	△ 19	△ 20.7
ウルソ	35	68	82	△ 14	△ 17.5
デバス	32	62	73	△ 10	△ 14.2
ラジカット	29	58	73	△ 15	△ 20.5
ワクチン	138	336	391	△ 54	△ 13.9
インフルエンザ	20	111	138	△ 26	△ 19.2
テトラビック	40	86	95	△ 9	△ 9.9
水痘ワクチン	29	55	64	△ 8	△ 12.8
田辺製薬販売取扱品(注2)	69	143	138	5	3.5
海外医療用医薬品	102	218	252	△ 34	△ 13.7
ヘルベッサー	29	61	65	△ 4	△ 5.8
アルガトロバン(ノバスタン)	9	18	27	△ 9	△ 31.6
タナトリン	9	16	16	0	2.8
シンボニー	7	15	13	2	16.8
製造受託品(注3)	9	16	22	△ 6	△ 29.1
ロイヤリティ収入等	383	780	861	△ 82	△ 9.5
ジレニア ロイヤリティ	非開示	非開示	517	-	-
インヴオカナ ロイヤリティ	非開示	非開示	206	-	-
一般用医薬品	23	41	38	3	8.9
売上収益合計	1,930	4,065	4,258	△ 193	△ 4.5

(注1) テネリアについては、2015年10月1日より、当社と第一三共による共同販売から第一三共による単独販売へと販売スキームが変更となりました。スキーム変更後は、第一三共への販売額と同社から受け取るプロモーションフィーを合算し、テネリア(新スキーム)として当社売上高を開示しております。

(注2) ジェネリック医薬品の他、田辺三菱製薬より移管した長期収載品を含んでおります。

(注3) 他社製品の製造受託品等

④ 設備投資／情報システム開発投資予想

(単位:億円)

	2016年度 上期予想	2016年度 通期予想	2015年度 通期実績	増減額	増減率%
設備投資額／発生ベース	83	143	112	31	27.2
システム投資額／発生ベース	12	17	9	8	81.2

2016年度の主な設備投資予定		2016年度の主なシステム投資予定	
生産関係設備 (吉富工場新製剤棟建設)	106億円 (62億円)	研究開発関係システム	5億円
研究開発関係設備	32億円	生産関係システム	3億円
その他	5億円	その他	9億円

⑤ 減価償却費／償却費予想

(単位:億円)

	2016年度 上期予想	2016年度 通期予想	2015年度 通期実績	増減額	増減率%
有形固定資産 減価償却費	36	75	73	2	3.2
無形固定資産 減価償却費	8	16	16	0	1.9
製品に係る無形資産 償却費	7	15	15	-	-

① 損益計算書

(単位:億円)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
売上高	4,072	4,192	4,127	4,151	4,317
売上原価	1,523	1,664	1,694	1,696	1,558
売上総利益	2,549	2,528	2,433	2,455	2,759
販管費	1,858	1,838	1,842	1,784	1,810
研究開発費	702	665	704	696	753
営業利益	690	690	591	671	949
経常利益	688	694	619	677	948
特別利益	12	42	153	137	141
特別損失	61	59	48	186	246
親会社株主に帰属する当期純利益	390	419	454	395	564

② 貸借対照表

(単位:億円)

	2011年度末	2012年度末	2013年度末	2014年度末	2015年度末
総資産	8,199	8,668	8,865	9,293	9,302
流動資産	4,197	4,767	5,405	6,036	6,573
固定資産	4,003	3,901	3,460	3,257	2,730
負債	984	1,139	1,086	1,289	1,135
流動負債	696	861	818	1,054	913
固定負債	289	277	268	235	222
純資産	7,215	7,529	7,778	8,004	8,167

③ その他財務数値

(単位:億円)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
営業キャッシュ・フロー	372	606	699	682	652
投資キャッシュ・フロー	△ 632	△ 350	△ 243	△ 598	△ 266
財務キャッシュ・フロー	△ 172	△ 237	△ 211	△ 219	△ 222
設備投資	71	92	126	157	112
情報システム開発投資	12	22	21	16	9
減価償却費	125	84	92	90	88
自己資本比率(%)	87.3	86.3	86.4	84.9	86.6
自己資本当期純利益率(ROE)(%)	5.5	5.7	6.0	5.1	7.1
1株当たり当期純利益(円)	69.54	74.67	80.92	70.41	100.60
1株当たり純資産(円)	1,275.85	1,333.22	1,365.52	1,406.41	1,436.63

④ 従業員数

(単位:人)

	2011年度末	2012年度末	2013年度末	2014年度末	2015年度末	2016年度末予想
連結	9,180	8,835	9,065	8,457	8,125	7,607
単体	4,826	4,850	4,867	4,844	4,780	4,333

5 四半期業績の推移(日本基準)

(億円未満四捨五入)

① 損益計算書

(単位:億円)

	2014年度					2015年度				
	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	第3四半期 10~12月	第4四半期 1~3月	通期実績	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	第3四半期 10~12月	第4四半期 1~3月	通期実績
売上高	946 22.8%	1,043 25.1%	1,209 29.1%	953 23.0%	4,151 100.0%	985 22.8%	1,032 23.9%	1,392 32.2%	908 21.0%	4,317 100.0%
国内	798 23.7%	853 25.3%	986 29.2%	736 21.8%	3,372 100.0%	763 24.2%	746 23.7%	950 30.2%	689 21.9%	3,148 100.0%
海外	148 19.0%	191 24.5%	223 28.7%	217 27.9%	779 100.0%	222 19.0%	286 24.5%	442 37.8%	219 18.7%	1,169 100.0%
売上原価	392	390	498	416	1,696	355	376	477	350	1,558
売上原価率	41.4%	37.4%	41.2%	43.6%	40.9%	36.1%	36.5%	34.2%	38.5%	36.1%
売上総利益	554 22.6%	653 26.6%	710 28.9%	538 21.9%	2,455 100.0%	630 22.8%	656 23.8%	915 33.2%	558 20.2%	2,759 100.0%
販管費	417 23.4%	441 24.7%	424 23.8%	502 28.2%	1,784 100.0%	402 22.2%	448 24.8%	431 23.8%	528 29.2%	1,810 100.0%
研究開発費	163 23.5%	156 22.4%	162 23.2%	215 30.9%	696 100.0%	155 20.5%	178 23.6%	170 22.6%	250 33.2%	753 100.0%
研究開発費以外	253 23.3%	285 26.2%	263 24.1%	287 26.4%	1,088 100.0%	248 23.4%	270 25.6%	261 24.7%	278 26.3%	1,057 100.0%
人件費	111 23.8%	119 25.5%	118 25.2%	120 25.6%	468 100.0%	112 24.0%	118 25.4%	118 25.2%	118 25.3%	466 100.0%
のれん償却額	27 24.7%	27 24.7%	27 24.7%	28 25.8%	109 100.0%	26 25.1%	26 25.0%	26 25.0%	26 24.9%	105 100.0%
その他	115 22.6%	139 27.1%	118 23.1%	139 27.2%	511 100.0%	109 22.5%	126 25.9%	118 24.2%	134 27.5%	486 100.0%
営業利益	137 20.4%	213 31.7%	286 42.7%	35 5.3%	671 100.0%	227 24.0%	208 21.9%	484 51.0%	30 3.2%	949 100.0%
経常利益	146 21.5%	209 30.9%	286 42.3%	36 5.3%	677 100.0%	226 23.9%	207 21.8%	487 51.4%	28 2.9%	948 100.0%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	96 24.3%	229 58.1%	158 39.9%	△ 88 △ 22.3%	395 100.0%	149 26.4%	143 25.3%	309 54.8%	△ 37 △ 6.5%	564 100.0%

* 各項目(売上原価を除く)の下段は進捗率を表示

② 主要製品売上高

(単位:億円)

	2014年度					2015年度				
	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	第3四半期 10~12月	第4四半期 1~3月	通期実績	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	第3四半期 10~12月	第4四半期 1~3月	通期実績
医療用医薬品	932 22.7%	1,033 25.1%	1,198 29.2%	944 23.0%	4,107 100.0%	972 22.7%	1,022 23.9%	1,381 32.3%	900 21.0%	4,276 100.0%
国内医療用医薬品	775 23.9%	777 24.0%	968 29.9%	719 22.2%	3,239 100.0%	743 24.1%	731 23.7%	933 30.3%	674 21.9%	3,081 100.0%
レミケード	173 24.6%	179 25.3%	193 27.3%	161 22.8%	706 100.0%	169 24.3%	176 25.4%	195 28.1%	154 22.2%	694 100.0%
タリオン	33 20.3%	28 17.7%	43 26.6%	57 35.4%	160 100.0%	36 21.1%	29 17.0%	48 28.1%	57 33.8%	169 100.0%
セレジスト	41 26.4%	38 24.0%	44 27.9%	34 21.7%	157 100.0%	39 27.4%	35 24.6%	41 28.7%	27 19.3%	142 100.0%
テネリア (旧スキーム)(注1)	11 17.9%	16 24.9%	19 30.6%	17 26.5%	62 100.0%	20 55.6%	17 46.5%	△ 1 △ 2.1%	0 0.0%	37 100.0%
テネリア (新スキーム)(注1)	非開示 -	非開示 -	非開示 -	非開示 -	非開示 -	非開示 -	非開示 -	43 41.3%	32 30.7%	105 100.0%
メインテート	38 26.7%	34 23.9%	38 26.8%	32 22.6%	141 100.0%	37 27.4%	32 24.0%	38 27.9%	28 20.8%	135 100.0%
シンボニー	25 23.5%	26 24.6%	29 27.9%	25 23.9%	105 100.0%	30 23.4%	32 24.4%	36 28.0%	31 24.2%	129 100.0%
レクサプロ	17 21.1%	17 21.7%	27 34.3%	18 22.9%	80 100.0%	21 22.5%	22 23.6%	30 31.9%	21 22.0%	95 100.0%
クレメジン	28 26.6%	26 24.9%	28 26.8%	23 21.8%	105 100.0%	25 27.2%	23 24.8%	26 27.7%	19 20.3%	93 100.0%
ウルソ	27 26.7%	24 24.2%	27 27.0%	22 22.1%	100 100.0%	24 29.0%	20 24.8%	22 27.1%	16 19.0%	82 100.0%
デパス	21 25.9%	20 24.9%	22 27.1%	18 22.2%	81 100.0%	19 26.7%	18 24.3%	20 27.7%	15 21.2%	73 100.0%
ラジカット	20 26.7%	18 24.7%	21 28.3%	15 20.3%	74 100.0%	17 22.8%	18 24.3%	22 30.2%	17 22.7%	73 100.0%
アンブラーグ	24 28.7%	20 23.9%	22 27.0%	17 20.5%	83 100.0%	19 29.8%	16 24.2%	18 27.7%	12 18.3%	64 100.0%
ワクチン	49 16.2%	62 20.4%	148 48.8%	44 14.5%	303 100.0%	63 16.1%	82 21.0%	170 43.6%	76 19.3%	391 100.0%
インフルエンザ	△ 1 △ 0.7%	9 12.7%	73 99.3%	△ 8 △ 11.3%	74 100.0%	0 △ 0.2%	28 20.4%	93 67.5%	17 12.4%	138 100.0%
テトラビック	18 23.6%	18 23.7%	21 28.2%	18 24.4%	75 100.0%	19 20.3%	17 18.1%	36 37.7%	23 23.9%	95 100.0%
水痘ワクチン	6 8.7%	13 18.2%	35 48.8%	17 24.3%	72 100.0%	18 28.1%	15 24.3%	16 25.8%	14 21.8%	64 100.0%
ミールビック	13 31.7%	9 23.4%	9 21.5%	9 23.4%	40 100.0%	14 29.0%	11 21.4%	13 25.7%	12 23.8%	50 100.0%
田辺製薬販売 取扱品 (注2)	34 24.8%	31 22.5%	39 28.6%	33 24.0%	136 100.0%	34 24.7%	32 23.2%	40 28.7%	32 23.4%	138 100.0%
海外医療用医薬品	53 23.0%	60 26.3%	55 23.7%	62 27.1%	230 100.0%	62 24.5%	81 32.0%	55 21.9%	54 21.6%	252 100.0%
ヘルベッサ	16 24.4%	19 29.1%	14 22.3%	16 24.2%	65 100.0%	15 23.2%	16 24.7%	16 24.5%	18 27.6%	65 100.0%
アルガトロバン (ノバスタン)	7 32.5%	6 26.5%	5 22.9%	4 18.1%	21 100.0%	5 17.6%	11 40.8%	6 22.1%	5 19.5%	27 100.0%
タナトリン	5 24.7%	6 31.4%	4 21.8%	4 22.1%	18 100.0%	5 28.5%	4 24.0%	4 25.4%	4 22.0%	16 100.0%
製造受託品(注3)	9 27.0%	12 34.6%	5 15.1%	8 23.2%	34 100.0%	6 25.9%	5 22.2%	4 20.1%	7 31.7%	22 100.0%
ロイヤリティ収入等	95 15.7%	184 30.4%	170 28.2%	155 25.7%	604 100.0%	162 17.6%	206 22.4%	389 42.2%	164 17.8%	920 100.0%
ジレニア ロイヤリティ	77 17.6%	111 25.3%	137 31.1%	114 26.0%	439 100.0%	112 21.7%	146 28.2%	140 27.1%	119 22.9%	517 100.0%
インヴォカナ ロイヤリティ	非開示 -	非開示 -	非開示 -	36 37.3%	98 100.0%	46 22.1%	54 26.0%	68 32.8%	40 19.2%	206 100.0%
一般用医薬品	12 30.4%	10 24.2%	10 24.9%	8 20.4%	40 100.0%	12 31.0%	9 24.8%	10 25.3%	7 18.9%	38 100.0%
売上高合計	946 22.8%	1,043 25.1%	1,209 29.1%	953 23.0%	4,151 100.0%	985 22.8%	1,032 23.9%	1,392 32.2%	908 21.0%	4,317 100.0%

* 各項目の下段は進捗率を表示

(注1) テネリアについては、2015年10月1日より、当社と第一三共による共同販売から第一三共による単独販売へと販売スキームが変更となりました。スキーム変更後は、第一三共への販売額と同社から受け取るプロモーションフィーを合算し、テネリア(新スキーム)として当社売上高を開示しております。

(注2) ジェネリック医薬品の他、田辺三菱製薬より移管した長期収載品を含んでおります。

(注3) 他社製品の製造受託品等

6 新製品開発状況について(2016年5月11日現在)

1. 新規薬剤

治験コード (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	地域	開発段階	起源	
TA-7284 (カナグリフロジン水和物)	SGLT2阻害剤 (2型糖尿病)	台湾	申請中 (2015年3月)	自社	
MP-513 (テネリグリブチン臭化水素 酸塩水和物)	DPP-4阻害剤 (2型糖尿病)	インドネシア	申請中 (2015年4月)	自社	
		欧州	フェーズ 2		
		米国	フェーズ 1		
TAU-284 (ペボタスチン)	選択的ヒスタミンH1受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤 (小児・アレルギー性鼻炎、小児・アレルギー性皮膚炎)	中国	申請中 (2016年3月)	宇部興産	
MT-2412 (テネリグリブチン臭化水素 酸塩水和物、カナグリフロジ ン水和物)	DPP-4阻害剤とSGLT2阻害剤の合剤 (2型糖尿病)	日本	フェーズ 3	自社	
MP-214 (カリブラジン塩酸塩)	ドバミンD3/D2受容体パーシャルアゴニスト (統合失調症)	日本、アジア	フェーズ 2b/3	ハンガリー： ゲデオン/ヒター	
MT-4666	α 7nACh受容体作動剤 (アルツハイマー型認知症)	日本	フェーズ 2	米：フォーラム ファーマシュー ティカルズ	
MT-3995	選択的ミネラルコルチコイド受容体拮抗剤 (糖尿病性腎症)	欧州	フェーズ 2	自社	
		日本	フェーズ 2		
		米国	フェーズ 1		
MT-1303	スフィンゴシン1リン酸受容体機能的アンタゴニスト (多発性硬化症)	欧州	フェーズ 2	自社	
		(乾癬)	欧州		フェーズ 2
		(クローン病)	日本、欧州		フェーズ 2
		(炎症・自己免疫疾患)	日本、欧州、 米国		フェーズ 1
MT-2301	ヘモフィルスインフルエンザ菌b型(Hib)ワクチン (小児のHib感染の予防)	日本	フェーズ 2	米：ニューロン バイオテック	
インフルエンザワクチン	植物由来VLPワクチン (インフルエンザ[H5N1]の予防)	カナダ	フェーズ 2	自社	
インフルエンザワクチン	植物由来VLPワクチン (季節性インフルエンザの予防)	米国、カナダ	フェーズ 2	自社	
インフルエンザワクチン	植物由来VLPワクチン (インフルエンザ[H7N9]の予防)	カナダ	フェーズ 1	自社	
GB-1057 (人血清アルブミン [遺伝子組換え])	血液および体液用剤	米国	フェーズ 1	自社	
MP-124	神経系用剤	米国	フェーズ 1	自社	
MP-157	循環器官用剤	欧州	フェーズ 1	自社	
MT-0814	眼科用剤	日本	フェーズ 1	自社	
MT-8554	神経系用剤 等	欧州	フェーズ 1	自社	
MT-5199	神経系用剤	日本	フェーズ 1	米：ニューロクラ インバイオサイエ ンシズ	

2. 効能・用法追加

製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	地域	開発段階	起源	備考
レミケード (インフリキシマブ [遺伝子組換え])	抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤 (乾癬:用法・用量の変更 [増量])	日本	申請中 (2015年7月)	米:ヤンセン・ バイオテック	
	(小児・クローン病)		フェーズ 3		
	(小児・潰瘍性大腸炎)		フェーズ 3		
イムセラ (フィンゴリド塩酸 塩)	スフィンゴシン1リン酸受容体機能的アンタゴニスト (慢性炎症性脱髄性多発根神経炎)	国際共同治験	フェーズ 3	自社	日本はノバルティス ファーマと共同開発 海外はノバルティス に導出
カナグル (カナグリフロジン水 和物)	SGLT2阻害剤 (糖尿病性腎症)	国際共同治験	フェーズ 3	自社	治験依頼者:ヤンセ ンリサーチ アンド テ ベロップメント

3. 導出品

治験コード (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	地域	開発段階	導出先(備考)
TA-7284 (カナグリフロジン水和物)	SGLT2阻害剤 (2型糖尿病・メトホルミンとの合剤[徐放性製剤])	米国	申請中 (2015年11月)	米:ヤンセンファーマシューティカルズ
	(糖尿病性腎症)	国際共同治験	フェーズ 3	
	(1型糖尿病)	米国、カナダ	フェーズ 2	
	(肥満・フェンテルミンとの併用)	米国	フェーズ 2	
FTY720 (フィンゴリモド塩酸塩)	スフィンゴシン1リン酸受容体機能的アンタゴニスト (慢性炎症性脱髄性多発根神経炎)	国際共同治験	フェーズ 3	スイス:ノバルティス (日本は、当社とノバルティスファーマの共同開発)
MT-4580	カルシウム受容体作動剤 (透析患者における二次性副甲状腺機能亢進症)	日本	フェーズ 3	日:協和発酵キリン
Y-39983	ROCK阻害剤 (緑内障)	日本	フェーズ 2	日:千寿製薬
MT-210	セロトニン2A / シグマ2 受容体拮抗剤 (統合失調症)	欧州	フェーズ 2	米:ミネルバ・ニューロサイエンス
MCC-847 (マシルカスト)	ロイコトリエンD4受容体拮抗剤 (喘息)	韓国	フェーズ 2	韓:サマファーマ
Wf-516	モノアミンレセプターに対する多重作用* (うつ病)	欧州	フェーズ 2	米:ミネルバ・ニューロサイエンス
Y-803	BRD阻害剤 (がん)	欧州、カナダ	フェーズ 2	米:メルク
sTU-199 (テナトプラゾール)	消化器官用剤	欧州	フェーズ 1	仏:ネグマ(シデム)

*選択的セロトニン取り込み阻害/セロトニン1A受容体拮抗/ドパミン取り込み阻害/ α 1Aと α 1Bアドレナリン受容体の調節

4. 2015年度第3四半期決算発表時点(2016年2月3日)からの変更点

① 新規薬剤

治験コード (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	地域	前回発表時点	2016年5月11日現在	起源
TAU-284 (ベポタスチン)	選択的ヒスタミンH1受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤 (小児・アレルギー性鼻炎、小児・アレルギー性皮膚炎)	中国	記載なし	申請中 (2016年3月)	宇部興産
MT-5199	神経系用剤	日本	記載なし	フェーズ 1	米:ニューロクラインバイオサイエンシズ

② 効能・用法追加

製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	地域	前回発表時点	2016年5月11日現在	備考
トリビック (沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン)	ワクチン・トキソイド混合製剤 (百日せきジフテリア破傷風感染予防; 2期接種)	日本	申請中 (2015年4月)	承認 (2016年2月)	阪大微生物病研究会が承認を取得、当社は共同開発を実施
テラビック (テラプレビル)	NS3-4Aプロテアーゼ阻害剤 (C型慢性肝炎[フェロン併用])	日本	フェーズ 3	削除	東レとの共同開発契約解約の為

5. 新製品開発状況補足資料(2016年5月11日現在)

① 新規薬剤

治験コード(一般名)	補足説明
TA-650 (インフリキシマブ[遺伝子組換え])	世界初の抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤。日本では、製品名レミケードで2002年に発売。
TA-7284 (カナグリフロジン水和物)	SGLT2選択的阻害剤。腎臓における糖再吸収を阻害して血糖値を低下させる。日本では、製品名カナグルで2014年9月に発売。
MP-513 (テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物)	DPP-4阻害剤。食事摂取後のインスリン分泌を促進し、空腹時のインスリン分泌を促進しない2型糖尿病治療剤。日本では、製品名テネリアで2012年9月に発売。
MCI-186 (エダラボン)	フリーラジカル消去作用を有する。日本では、製品名ラジカットで、2001年に脳梗塞急性期に伴う神経症候、日常生活動作障害、機能障害の改善薬として発売。2015年6月に日本、同年12月に韓国で、筋萎縮性側索硬化症(ALS)における機能障害の進行抑制の適応を取得。
MT-2412 (テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物、カナグリフロジン水和物)	テネリグリプチン(DPP-4阻害剤)とカナグリフロジン(SGLT2阻害剤)の合剤。
MP-214 (カリプラジン塩酸塩)	ドバミンD3/D2受容体パーシャルアゴニスト。統合失調症の陽性症状に加え、陰性症状や認知機能障害にも効果が期待される。ゲデオン/ヒター(ハンガリー)より導入。
MT-4666	α 7nACh受容体作動剤。アセチルコリンおよびグルタミン酸シグナル伝達を賦活化させることにより、認知機能を改善。フォーラムファーマシューティカルズ(米)より導入。
MT-3995	選択的ミネラルコルチコイド受容体拮抗剤。腎保護作用を示す。
MT-1303	スフィンゴシン1リン酸受容体機能的拮抗剤。リンパ球のリンパ節からの移出を抑制し、自己免疫反応を抑制する。イムセラ/ジレニアの後継品。
MT-2301	ヘモフィルスインフルエンザ菌b型(Hib)ワクチン。ニューロンバイオテック(米)より導入。小児のHibによる侵襲性感染症の予防。
インフルエンザワクチン	植物由来VLPワクチン。インフルエンザ[H5N1]の予防。
インフルエンザワクチン	植物由来VLPワクチン。季節性インフルエンザの予防。
インフルエンザワクチン	植物由来VLPワクチン。インフルエンザ[H7N9]の予防。

② 効能・用法追加

製品名(一般名)	補足説明
レミケード (インフリキシマブ[遺伝子組換え])	世界初の抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤。日本で、2002年にクローン病治療剤として発売。その後、関節リウマチ、ベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎、乾癬、強直性脊椎炎、潰瘍性大腸炎、腸管型・神経型・血液型ベーチェット病の治療剤としての適応も取得。
イムセラ (フィンゴリモド塩酸塩)	スフィンゴシン1リン酸受容体機能的アンタゴニスト。リンパ球のリンパ節からの移出を抑制することで免疫調整作用を発揮し、多発性硬化症におけるミエリンの破壊(脱髄)を防止する。国内ではノバルティスファーマと共同で開発し、2011年に多発性硬化症治療薬として発売。慢性炎症性脱髄性多発根神経炎でフェーズ3(国際共同治験)。日本ではノバルティスファーマとの共同開発。
カナグル (カナグリフロジン水和物)	SGLT2選択的阻害剤。腎臓における糖再吸収を阻害して血糖値を低下させる。日本では、2型糖尿病治療剤として2014年9月に発売。製品名インヴォカナとしてヤンセンファーマシューティカルズが米国で、また、その関係会社が欧州で販売中。

③ 導出品

治験コード (一般名)	補足説明
TA-7284 (カナグリフロジン水和物)	SGLT2選択的阻害剤。腎臓における糖再吸収を阻害して血糖値を低下させる。2型糖尿病の適応で製品名インヴォカナとしてヤンセンファーマシューティカルズが米国で、また、その関係会社が欧州で販売中。メホルミンとの合剤[即放性製剤]は欧州で2014年4月に承認を取得、米国では2014年8月に承認を取得した。
FTY720 (フィンゴリモド塩酸塩)	スフィンゴシン1リン酸受容体機能的アンタゴニスト。多発性硬化症治療薬として日本では、製品名イムセラで販売中。ノバルティスが日欧米で製品名ジレニアで販売中。
Y-39983	血管平滑筋を弛緩させるROCK(Rho-キナーゼ)阻害作用をもつ薬剤。
MT-210	セロトニン2A / シグマ2 受容体拮抗剤。
MCC-847 (マシルカスト)	ロイコトリエンD4受容体拮抗剤。
MT-4580	カルシウム受容体作動剤。
Wf-516	モノアミンレセプターに対する多重作用(選択的セロトニン取り込み阻害/セロトニン1A受容体拮抗/ドパミン取り込み阻害/ α 1Aと α 1Bアドレナリン受容体の調節)。
Y-803	BRD-ヒストン結合阻害剤。

7 その他

1. 関係会社

① 関係会社数

	2015年度末	2014年度末	増減数	特記事項
連結子会社数	28	28	0	増加)MT ファーマ アメリカ、MT ファーマ シンガポール 減少)タナベU.S.A.、MPロジスティクス
非連結子会社数	-	1	△ 1	減少)タナベセイヤクマレーシア
関連会社数	1	1	-	
合計	29	30	△ 1	

② 連結子会社一覧

(2016年3月31日現在)

	会社名	資本金	議決権所有割合 (内、間接所有分)	決算期	事業内容
1	吉富薬品	385百万円	100.0 (—)	3月末	医薬品の学術情報伝達
2	バイファ	100百万円	100.0 (—)	3月末	医薬品の製造・販売
3	田辺三菱製薬工場	1,130百万円	100.0 (—)	3月末	医薬品の製造・販売
4	田辺製薬吉城工場	400百万円	100.0 (—)	3月末	医薬品の製造・販売
5	田辺製薬販売	499百万円	100.0 (—)	3月末	ジェネリック医薬品等の販売
6	田辺アールアンドディー・サービス	44百万円	100.0 (—)	3月末	医薬品の研究開発支援サービス
7	田辺総合サービス	90百万円	100.0 (—)	3月末	不動産の管理、宣伝物制作等
8	ミツビシ タナベ ファーマ ホールディングス アメリカ	USD 167	100.0 (—)	3月末	米国グループ会社の経営管理
9	ミツビシ タナベ ファーマ ディベロップメント アメリカ	USD 200	100.0 (100.0)	3月末	医薬品の研究開発
10	MT ファーマ アメリカ	USD 100	100.0 100.0	3月末	医薬品の販売
11	MP ヘルスケア ベンチャー マネジメント	USD 100	100.0 (100.0)	3月末	バイオベンチャーへの投資事業
12	タナベ リサーチ ラボラトリーズ アメリカ	USD 3,000,000	100.0 (100.0)	3月末	医薬品の研究開発
13	MTPC ホールディングス カナダ	CAD Mn 287	100.0 (—)	3月末	メディカゴグループへの投資
14	メディカゴ	CAD Mn 328	60.0 (56.5)	3月末	ワクチンの研究開発・製造
15	メディカゴ U. S. A.	USD 99	60.0 (60.0)	3月末	ワクチンの製造
16	メディカゴ R&D	CAD 500	60.0 (60.0)	3月末	ワクチンの研究開発
17	田辺三菱製薬研究(北京)	USD 1,000,000	100.0 (—)	12月末	医薬品の研究開発
18	天津田辺製薬	USD 16,230,000	75.4 (—)	12月末	医薬品の製造・販売
19	広東田辺医薬	CNY 7,000,000	100.0 (—)	12月末	医薬品の販売
20	台湾田辺製薬	TWD 90,000,000	65.0 (—)	3月末	医薬品の製造・販売
21	台田薬品	TWD 20,000,000	65.0 (—)	3月末	医薬品の販売
22	タナベ インドネシア	USD 2,500,000	99.6 (—)	3月末	医薬品の製造・販売
23	MT ファーマ シンガポール	SGD 300,000	100.0 (—)	3月末	医薬品の研究開発
24	ミツビシ タナベ ファーマ コリア	KRW 2,100,000,000	100.0 (—)	3月末	医薬品の製造・販売
25	ミツビシ タナベ ファーマ ヨーロッパ	GBP 4,632,000	100.0 (—)	3月末	医薬品の研究開発
26	ミツビシ タナベ ファーマ ゲーエムベーパー	EUR 25,000	100.0 (100.0)	3月末	医薬品の販売

(注)上記以外に清算手続中の連結子会社が2社あります。

③ 持分法適用関連会社一覧

(2016年3月31日現在)

	会社名	資本金	議決権所有割合 (内、間接所有分)	決算期	事業内容
1	サンテラボ・タナベ シミイ	EUR 1,600,000	50.0 (—)	12月末	医薬品の製造・販売

2. 株式の状況

① 発行済株式数

	2016年3月末	2015年3月末
期末発行済株式総数	561,417,916	561,417,916
期末自己株式数	428,945	428,340
期末発行済株式数	560,988,971	560,989,576
期中平均自己株式数	428,670	427,456
期中平均株式数	560,989,246	560,990,460

② 大株主の状況

順位	株主名	2016年3月末		2015年3月末		
		持株数(千株)	持株比率	順位	持株数(千株)	持株比率
1	三菱ケミカルホールディングス	316,320	56.34%	1	316,320	56.34%
2	日本マスタートラスト信託銀行(信託口)	25,438	4.53%	2	24,137	4.30%
3	日本生命保険	12,065	2.15%	3	12,065	2.15%
4	日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口)	11,199	1.99%	4	10,669	1.90%
5	三菱東京UFJ銀行	7,254	1.29%	5	7,254	1.29%
6	日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口9)	6,176	1.10%	12	3,449	0.61%
7	STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	5,602	1.00%	10	3,635	0.65%
8	STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	4,552	0.81%	6	5,488	0.98%
9	田辺三菱製薬従業員持株会	4,002	0.71%	7	4,505	0.80%
10	ニプロ	3,821	0.68%	9	3,821	0.68%

③ 所有者別株式数分布状況

	2016年3月末			2015年3月末		
	株主数(名)	株式数(千株)	構成比	株主数(名)	株式数(千株)	構成比
金融機関	79	101,203	18.03%	75	98,321	17.52%
外国法人等	515	97,796	17.42%	465	100,650	17.93%
個人・その他(注)	16,396	25,295	4.51%	13,972	24,578	4.38%
その他の法人	265	332,740	59.28%	251	334,680	59.62%
金融商品取引業者	36	4,276	0.76%	34	3,083	0.55%
合計	17,291	561,311	100.00%	14,797	561,315	100.00%
単元未満株式の状況	-	106	-	-	102	-

* 1単元の株式数は100株

(注) 個人・その他には、自己株式(2016年3月末428千株、2015年3月末428千株)を含んでおります。

④ 配当金／株価推移

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度予想
1株当たり年間配当金(円)	35	40	40	42	46	48
配当性向(%) ^(注)	50.3	53.6	49.4	59.6	45.7	47.2
期末株価(円)	1161	1445	1443	2062	1957	-
株式時価総額(億円)	6518	8112	8101	11576	10987	-

(注) 2015年度までは日本基準(のれん償却後)、2016年度予想はIFRSベース(のれん非償却)の配当性向を表示しております。

参考

主要医療用医薬品の解説

レミケード	2002年5月発売	薬効	抗TNF α モノクローナル抗体製剤
<p>炎症性サイトカインであるTNFαをターゲットとした抗TNFα抗体で、早く強力な効果と、1回の点滴で8週間効果が持続するという点が強長である。関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)をはじめ、クローン病、潰瘍性大腸炎、尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、ベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎、強直性脊椎炎の効能・効果を有する。2015年8月に腸管型ベーチェット病、神経型ベーチェット病、血管型ベーチェット病、2015年12月に川崎病の効能を追加。また乾癬の用法・用量の追加(増量)について2015年7月に申請した。</p> <p>オリジン:(米)ヤンセン・バイオテック</p>			
タリオン	2000年10月発売	薬効	アレルギー性疾患治療剤
<p>抗ヒスタミンH1作用の発現が早くみられ、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患に伴うそう痒に早期から高い効果を発揮する。一方で、眠気の発現頻度が低い。2007年7月に口腔内崩壊錠を発売し、2015年5月に小児(7-15歳)適応の承認を取得した。</p> <p>オリジン:宇都興産</p>			
セレジスト	2000年9月発売	薬効	脊髄小脳変性症治療剤
<p>脊髄小脳変性症における運動失調を改善する甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン(TRH)の誘導体である。本剤が発売されるまでは注射剤のみであったが、自社技術により経口投与を世界で初めて可能にした。2009年10月に口腔内崩壊錠を発売した。</p>			
テネリア	2012年9月発売	薬効	選択的DPP-4阻害剤
<p>当社が創製した初の日本オリジンのジペプチジルペプチダーゼ-4(DPP-4)阻害剤で活性型GLP-1の血中濃度を上昇させることにより、血糖依存的なインスリン分泌促進・グルカゴン分泌抑制をもたらす血糖降下作用を発揮する2型糖尿病治療剤である。</p>			
メインテート	1990年11月発売	薬効	選択的 β 1遮断剤(高血圧症・狭心症・不整脈・慢性心不全治療剤)
<p>世界100カ国以上で使用されている代表的なβ1遮断剤。極めて高いβ1選択性と良好な薬物動態を示し、高い有効性と安全性とともに、生命予後改善の豊富なエビデンスを有する。2011年5月に慢性心不全、2013年6月に頻脈性心房細動の効能をそれぞれ追加。</p> <p>オリジン:(独)メルクセロー</p>			
シンボニー	2011年9月発売	薬効	ヒト型抗TNF α モノクローナル抗体製剤
<p>炎症性サイトカインであるTNFαをターゲットとした抗TNFα抗体で、4週間に1回の皮下注射投与で、長期にわたり継続する優れた有用性を有する。適応症は関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)である。ヤンセンファーマは、2016年4月に潰瘍性大腸炎に適応として申請した。</p> <p>オリジン:(米)ヤンセン・バイオテック</p>			
レクサプロ	2011年8月発売	薬効	選択的セロトニン再取り込み阻害剤(SSRI)
<p>セロトニントランスポータに高い選択性を持つSSRIで、世界98か国の国と地域で承認されている。うつ病・うつ状態への優れた有効性と良好な忍容性が認められている。さらに、用法・用量が簡便であることから抗うつ薬治療で重要な服薬アドヒアランスの向上が期待される。2015年11月に社会不安障害(SAD)適応の承認を取得した。</p> <p>オリジン:ルンドベック(デンマーク)、製造販売元:持田製薬</p>			
クレメジン	2011年4月発売	薬効	慢性腎不全用剤
<p>高純度の多孔質炭素からなる球形微粒状の経口吸着薬。慢性腎不全時の尿毒症毒素の吸着・除去により尿毒症症状の改善、腎機能低下進展抑制ならびに透析導入の遅延を図る。1991年12月に発売後、2011年4月、第一三共からの販売移管により、当社が販売を開始した。</p> <p>オリジン・製造販売元:クレハ</p>			
ウルソ	1962年7月発売	薬効	肝・胆・消化機能改善剤
<p>本剤の主成分ウルソデオキシコール酸(UDCA)は、古くから消化器症状の改善に用いられてきた熊胆(クマノイ)が薬効の起源であり、ヒト生体内に存在する胆汁酸の一つである。本剤は肝細胞を保護する作用を持ち、慢性肝疾患・C型慢性肝疾患における肝機能の改善、胆石の溶解等の効果を持つ。</p>			
デパス	1984年3月発売	薬効	精神安定剤
<p>国内で最も汎用されている抗不安薬。強力な抗不安作用とともに、優れた鎮静・催眠作用、筋緊張緩解作用を併せ持つため、心身症、神経症だけでなく、腰痛症、頸椎症、筋収縮性頭痛、うつ病ならびに睡眠障害にも効果が認められている。</p>			

ラジカット	2001年6月発売	薬効	フリーラジカルスカベンジャー(脳保護剤)
<p>日本で開発された世界初の脳保護剤(フリーラジカルスカベンジャー)であり、脳梗塞急性期の患者における神経症候、日常生活動作障害、機能障害(退院時の後遺症の程度)を改善する。脳梗塞の3つの主要病型(ラクナ梗塞、アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症)いずれにも適応がある。発症後24時間以内に投与を開始し、投与期間は14日以内。2010年5月には点滴静注バッグを発売した。筋萎縮性側索硬化症(ALS)を適応として2005年6月にオーファンドラッグに指定され、2015年6月に承認を取得した。</p>			
アンプラーグ	1993年10月発売	薬効	5-HT2ブロッカー(抗血小板剤)
<p>閉塞性動脈硬化症(ASO)など慢性動脈閉塞症に対する治療薬(経口抗血小板剤)である。セロトニンにより増強される血小板凝集、血管収縮、血管平滑筋細胞増殖を抑制することにより慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍、疼痛、冷感等の虚血性諸症状を改善する。特に側副血行路の血流を改善する。</p>			
テトラビック	2012年10月発売	薬効	百日せき、ジフテリア、破傷風及び急性灰白髄炎の予防
<p>既存のDPTワクチンに不活化ポリオワクチン(IPV)を混合した4種混合ワクチン。定期接種1期初回(3回)および1期追加(1回)の計4回接種に使用される。IPVは急性灰白髄炎(ポリオ)の予防のみならず、従来の生ポリオワクチン投与により極めて稀に発生するワクチン関連麻痺の解決が期待されている。</p> <p>オリジン・製造販売元:一般財団法人阪大微生物病研究会</p>			
ミールビック	2005年12月発売	薬効	麻しんおよび風しんの予防
<p>麻しんと風しんの予防接種が同時に行え、接種者の負担が軽減できる乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン。定期接種1期、2期で使用される。1回の接種で麻しんと風しんの両方の免疫を獲得できることから、被接種者(保護者)や医療関係者の負担軽減、麻しんおよび風しんの予防接種率向上に寄与している。</p> <p>オリジン・製造販売元:一般財団法人阪大微生物病研究会</p>			

ニュースリリース

2015年10月以降の主なニュースリリースは、下記の通りです。詳細は、ホームページ(<http://www.mt-pharma.co.jp/release/index.php>)をご覧ください。

発表日	内容
2015年 10月2日	抗NGF抗体「ファシヌマブ」 独占的開発・販売権に係る協業契約締結について
10月30日	メディカゴ社 エボラ抗体の作製に関するカナダ政府との契約締結について
10月30日	早期退職者の募集について
11月20日	抗うつ剤「レクサプロ錠10mg」の日本での効能・効果追加承認のお知らせ
11月25日	社外取締役逝去および異動に関するお知らせ
11月30日	「中期経営計画16-20 Open Up the Future」の策定について
12月9日	田辺三菱製薬、NEC、理論創薬研究所の3社共同でインシリコ創薬での高精度かつ高速なアプローチを開発
12月10日	ジェネリック医薬品の新発売に関するお知らせ ～より信頼して、ご使用いただける3つの工夫を採用～
12月15日	田辺三菱製薬とアケビア社によるバダデュスタットの日本・アジアにおける開発・販売権に係る協業契約締結について
12月21日	「ラジカット注30mg」「ラジカット点滴注射液30mg」韓国にて販売許可取得
12月21日	世界初、生物学的製剤として川崎病の承認取得 抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤「レミケード点滴静注用100」川崎病の承認取得について
2016年 2月3日	早期退職者の募集結果について
2月15日	ジェネリック医薬品 製造販売承認取得に関するお知らせ
2月23日	“未来を切り拓く「米国事業展開」への挑戦”が始動 米国における医薬品販売会社の設立に関するお知らせ
3月7日	監査役逝去および補欠監査役 監査役就任に関するお知らせ
3月8日	難病患者団体支援活動「田辺三菱製薬 手のひらパートナープログラム」 2016年度(第4期)助成先決定のお知らせ
3月8日	肝臓に直接作用することに特化した 新タイプの胃腸薬が誕生！ 「タナベ胃腸薬ウルソ」3月14日に新発売
3月10日	関節リウマチ治療薬「シンボニー皮下注50mgシリンジ(一般名:ゴリムマブ)」 日本における販売枠組み変更のお知らせ
3月22日	「バリキサ錠450mg」「臓器移植におけるサイトメガロウイルス感染症の発症抑制」 公知申請のお知らせ
3月28日	平成28年度 研究助成・海外留学助成 募集のお知らせ
3月29日	アステラス製薬および田辺三菱製薬:化合物ライブラリーの相互利用に関する提携のお知らせ
4月4日	海外子会社 MT ファーマ シンガポールに関するお知らせ ～アセアン地域における更なるシェア拡大へ～
4月18日	熊本地震に対する義援金について
4月27日	代表取締役の異動および役員人事に関するお知らせ